

### Ⅲ. 成果内容

#### ○要旨

八女市上陽町は福岡市から車で1時間程度の場所にある中山間地域・過疎地域である。その上陽町において、人口減少や少子高齢化、八女市との合併により身近な公共が縮小しており、コミュニティの維持が課題となっている。そこで、タイムバンキングという制度を通じ、過疎地域において新たな相互扶助制度を構築することが可能かどうか、またそれを実現するにはどのような環境整備が必要かを事例研究・実証研究を通じて検討することが本研究の目的である。

まず、事例調査からは、タイムバンキングの仕組みを大きく拠点施設、クレジットの授受、クレジットの形態/残高の管理方法、運営資金の4項目に分解し、それぞれの項目におけるパターンを整理した。

実証研究では、実際のタイムクレジットのやり取りを通じ、運用にあたっての住民の反応や中山間地の生活において有効な手段となるための課題を考察した。

最後に、タイムバンキングの効果について、事例・実証研究から、地域コミュニティの活性化、地域住民の健康の維持、公的・個人的負担の軽減、利用者の生きがいの創出といった効果があると考えられる。

そのうえで、新しい公共の定義からタイムバンキングを見ると、「多様な方法によって社会的に、また、市場を通じて経済的に評価され」という部分が大きな課題である。

これには、データでその効果を証明することが大前提である。さらに事業主体の他事業からの利益をタイムバンキング事業に再投資するための努力も必要である。これらが、個人や民間団体からの寄附やボランティアベースの協力を得ることや、行政からの支援等の資金の確保、ひいては中山間地における相互扶助の確立につながる。

#### ○キーワード

タイムバンキング、新しい公共、相互扶助、中山間地、過疎地域、人口減少、少子高齢化